

学力向上に向けた取組

函館市立旭岡中学校

1 課題

- ① 確かな学力の向上を目指せる場の設定
- ② 表現意欲の向上と豊かな表現力の育成

2 課題解決の具体策

- ① 言語活動の充実を意識した授業改善
- ② 函館市『知恵の予算』を利用した、文化祭での表現活動

3 取組の概要

① について

今年度の本校研究の柱である『言語活動の充実』を、意図的に学校生活に組み入れることにより、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることをめざし取り組んでいる。今年度、開校 30 周年記念式典を行った際、愛校心を扱った公開道徳や地域人材による戦争体験講話、生徒司会で進行した式典など、生徒を主役に据えた体験的表現活動をおこなった。校内研究体制としても、「言語活動の具体」を意識して、指導計画に組み込み、全教師が授業を公開しつつ授業力の向上を図っている。

周年記念授業「地域人材～戦争講話」



「知恵の予算」を活用した生徒主体の発表（芸術ホール 9/28）

② について

本校の生徒につけさせたい力のひとつである「表現力」。「知恵の予算」を利用して、芸術ホールのステージにひとりでも多く立てる機会を与える目的で、生徒主導のパフォーマンスを企画。学年の隔たりなく、3年生中心に練習を重ね発表。また、演劇や巨大なバック絵など、生徒の意志に応じた活動を企画した。ひとつの品を作っていく過程において、生徒たちは、自ら選んだ課題と対峙し、問題解決を図りながら、舞台を創りあげた

4 成果と課題

- 「確かな学力の向上」にむけて、日常の教科による言語環境を意識した学習活動とともに、活用を図る様々な行事等において、思考・判断・表現力の向上が見え始め、基礎的基本的な知識・技能を実感できる機会を与えることができている。また、表現活動においても、「自分たちで創りあげる喜び」を感じた生徒が多く、その後の、日常活動の活性化へとつながっている。
- 教育課程に「言語活動の充実」を、さらに明確に位置づけ、全教育活動においてその具体化を図らなければならない。さらに、基礎学力が不足している生徒に対し、家庭学習や補習などの具体策をさらに明確に位置づけて教育活動をおこなわなければならない。

